

外国語科

書く力を育成する段階的指導の研究(2)

—「将来の夢」を書くプロセスを通して—

小 廣 川 和 恵

1 はじめに

中学校学習指導要領¹⁾には、外国語(英語)の指導事項において、次のことが示されている。

エ 書くこと

(オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

ここでは、「自分の考えや気持ち」を表現する題材の選定と、文章を書く過程での「読み手に正しく伝わる」指導の工夫が求められている。

昨年度は、中学校1年生(7年生)が「英文日記」を書くまでの段階的指導について、体験した出来事と感想を書く際、事前にどの段階でどんな力を身に付けておくと効果的であるかを考察した。今年度は、中学校2年生(8年生)が「将来の夢」を書くプロセスでの段階的指導について考察する。

小学校6年生の外国語活動“Hi, Friends!2”では、最終単元で夢宣言を行うようになっている。そのため、生徒は小学校段階である程度の職業名に慣れ親しみ、“What do you want to be?” “I want to be a ~.” とリズムよくコミュニケーションを図ることができている。中学校では小学校で学んだ音声面での素地を踏まえ、なりたい理由を含めてより詳しく英語で表現することができるように指導することが必要である。そこで本研究では、「将来の夢」を書く授業実践を振り返り、行った段階的指導の成果と課題について明らかにしたい。

2 英語科教科構想について

(1) めざす生徒の姿

本学校園では、保育・教科部会の共通研究テーマを「学ぶ意義を感じながら課題に粘り強く取り組む子どもの育成」としている。そこで、英語科のテーマを「意欲的なコミュニケーションにつながる英語科の学習」とし、「めざす生徒の姿」を次のように設定した。

学ぶ意義を感じながら、書いたり話したりすることに粘り強く取り組む生徒

(2) 付けたい力

付けたい力は、次の3点に重点を置いている。

- ア つながりのある文を意識し、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力
- イ 相手を意識し、事物の説明や自分の意見を聞き手にわかりやすく話す力
- ウ 聞いたり読んだりしたことから得た知識を積極的に活用し、話したり書いたりしてコミュニケーションを図る力

書くことによって自分の思考を整理し、伝えたいことをより深く考えることができる。また、相手を意識して話す練習を継続して行うことによって、話すことに慣れる。更に、聞いたり読んだりすることによって得た情報を取り入れ、話題を膨らませることによって、コミュニケーションが深まると考える。

(3) 学習到達目標

生徒が学ぶ意義を感じながら書いたり話したりすることに粘り強く取り組み、最終的に「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」と「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことを目指し、次のような学習到達目標を設定した。

①卒業時の学習到達目標

場面や相手を意識して、考えや気持ち、事実などを適切な表現を用いて話したり書いたりすることができる。

②各学年の学習到達目標（「書くこと」のみ抜粋）

9年生	・内容的にまとまりのある一貫した文章を書くことができる。
8年生	・伝えようとすることに、自分の考えや気持ちなどを加えて書くことができる。
7年生	・伝えようとすることを簡単な文で書くことができる。

3 実践事例

(1) 単元名

Sunshine English Course 2

「My Project 5 将来の夢を語ろう」

(2) 実施時期

平成 26 年 11 月

(3) 実施学年

中学校 2 年生 79 名（男子 41 名女子 38 名）

(4) 単元観について

本単元は、既習表現を活用して自分の夢について英語でスピーチ原稿を作成し、発表する内容である。複数のモデル文章を読んで文章構成を学び、思考を整理しながら原稿を書き、友達と原稿を読み合ったりスピーチとして発表したりする学習展開で、4 技能を総合的・統一的に扱うことができる単元である。

(5) 集団観と生徒観について

これまでの学習では、内容的につながりのある英文を書くことを意識して取り組んできた。ある程度の量でつながりのある英文を書くためには思考が必要であり、粘り強さがある。アンケート調査（8 年生 78 人対象、5 月・7 月実施）からは、「英語の学習に粘り強く取り組むことができている」（5 段階）の項目の肯定的回答は、5 月 44 人、7 月 50 人で、若干の伸びがあった。日記や対話文など、書いた文章を生徒同士で読み合ったり感想を交流したり、全体で紹介してつながりよく書くポイントを学び合ったりする活動を行った結果、

粘り強く取り組むようになった生徒が増えたと考える。引き続き、すべての生徒へ粘り強く取り組ませるように、更に指導の手だてと支援が必要である。

(6) 指導にあたって

単元としては、話すことよりも内容的にまとまりのある文章を書くことに重点を置いて指導した。話すことについては、本学年は 12 月の修学旅行で外国の方と交流する機会があることから、初対面の外国の方と交流する際の話題の一つとして、夢について語る事が出来るように動機づけを行った。指導にあたって工夫したことは、次の 5 点である。

- ①モデルとなる文章の提示：書くことに粘り強く取り組ませる手立てとして、複数のモデル文章を与え、パターンを示して参考にさせた。
- ②ワークシートの工夫：段階的な指導として、基本表現の定着後、部分的に自分のことに当てはめて考えさせ、最終的に自己表現へと発展させた。
- ③ライティング指導：マッピングから文を書いていく際、英語的な発想の日本語を書いて、英文の特徴をつかませた。
- ④個人思考：原稿下書きの際、積極的に辞書を使わせ、表現の仕方がわからない場合にはワークシートに質問事項をメモさせ、書くことに集中させた。
- ⑤集団思考：机間指導で、英文にしにくい表現の質問やつながりよく書いている生徒の英文を把握し、全体で共有して学び合う場面を設定した。

(7) 単元の目標

- ①読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
- ②夢について、内容的にまとまりのある文章を書くことができる。（外国語表現の能力）
- ③繰り返して読んだり読み返したりして読み続

けている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

dream is to become a world-famous champion golfer. I hope that many people love me.

(8) 単元計画

第1次：モデルとなる文章を読んで、文章構成を理解する。

第2次：夢を語る際に効果的な文を活用し、理由やエピソードを加えながら原稿を書く。

第3次：グループで原稿を読み合う中で友達のことを理解し、感想を伝える。

第4次：まとまりのある英文を書く。

【料理人になる夢】

I want to have my own Japanese restaurant in New York.

I'm good at cooking Japanese dishes. People in America like Japanese food because it's healthy. I hope they will like my tofu dishes in summer and hot pot dishes in winter. I'll be happy if people like my food.

So I'm practicing cooking every day to be a good chef.

夢について語る際，“I want to be ～.”又は“My dream is to be ～.”という表現のどちらかを使うことが多い。しかし、石川遼選手の文章では両方の表現が使われている。そこで、導入段階で生徒に両文を比較させ、それぞれの文にどのような効果があるかを考えさせた。

(9) 授業の実際

指導上で工夫したこと5点について、モデルとなる文章と生徒が記入したワークシートを例として示しながら分析する。

①モデルとなる文章の提示について

教科書には「将来の夢」について異なった視点から書かれた2つのモデルとなる文章がある。一方はプロゴルファーの石川遼選手が小学校6年生の時に書いた作文の一部を英文にしたもの、もう一方は料理人の夢について書かれたものである。石川遼選手のモデル文章は「二十歳の時にマスターズトーナメントで優勝するつもり」「世界的に有名なチャンピオンゴルファーになる」など、明確な目標とプロセスが書かれている。それに対して料理人の夢の文章は、「ニューヨークで和食レストランを開き、夏は豆腐料理、冬は鍋料理を楽しんでもらいたい」「そのために、毎日料理の練習をしている」など、どこでどんなことがしたいか、またそのために今何をしているかなど、具体的に書かれている。それぞれのモデルを理解する際、単に文章構成を知るだけでなく、活用できる表現を自分の自己表現に取り入れることができるように指導の手立てを行った。

①I want to be a professional golfer.

②My dream is to become a world-famous champion golfer.

下線部のように形容詞を使うことで、どんなゴルファーになりたいのかを表現できる。また、プロゴルファーになった後、更にチャンピオンになることが夢であると強調しており、意識的に使い分けることでより印象的で詳しく表現できる。そして、“opening”で述べたことを“ending”で言い方を変えて繰り返し、首尾一貫したまとまりのある文章となっていることがわかる。これらのことを参考に、生徒は“popular musician”，“kind pharmacist”，“active surgeon”など、独自に表現し、文章を工夫していた。形容詞を意識的に使うことで、同じ職業でも印象が変わり、読み手にイメージが伝わりやすくなっていた。

②ワークシートの工夫について

基礎・基本の習得から自己表現につなげるために、モデル文章の中から活用しやすいと思われる基本的な3文を絞った。その文を中心に、まず意味を確認し、単語を置き換えて書く練習をし、自分のことにあてはめて書くようにワークシートを作成した（図1）。料理人の夢についてのモデル

【石川遼選手の夢】

I'd like to talk about my dream. I want to be a professional golfer. When I am sixteen years old, I will win a professional golf tournament. When I am twenty years old, I will win the Masters Tournament. My

文章では、「どこでどんなことがしたいか」、また「そのために今何をしているか」という自分の考えと行動に加えて、「I'll be happy if～」の文を使うと、「その仕事を通して、どんな時に喜びが得られるか」という気持ちを予測して表現することができる。テーマに沿った型を示すことによって、生徒は自分の考えや気持ちを表現しやすくなる。

電車関係の仕事でダイアを作りたいという夢を持った生徒は、“If people can travel safely with my train schedule, I'll be happy.” 「もし自分の作った列車のダイアで人々が安全に旅することができたら、自分はうれしい。」と書いていた。型を示したことで、どんな時にうれしくなるか具体的な場面を思い浮かべることができ、思考を深めることにつながったと考える。

My Project5② Aim:モデル文を読んで、夢について語る表現を学ぼう。

モデル2 次の夢についてのスピーチ原稿を読んで、空欄に日本語で意味を書こう。

opening	I want to have my own Japanese restaurant in New York. ①【私はニューヨークで自分の和食レストランを持ちたいです。】 I'm good at cooking Japanese dishes. 【日本料理を作るのが得意です。】
body	People in America like Japanese food because it's healthy. 【日本料理は健康によいのでアメリカ人は和食が好きです。】 I hope they will like my <u>tofu</u> dishes in summer and hot pot dishes in winter. 【私はアメリカ人が夏には私の豆腐料理を、冬には鍋料理を気に入ってくれたらいいです。】 I'll be happy if people like my food. ②【人々が私の料理を好きになったら私は嬉しいです。】 So I'm practicing cooking every day <u>to</u> be a good chef. ③【そこで、私はいいシェフになるために毎日料理の練習をしています。】
ending	

Writing Practice モデル文を参考に、次の日本語を英語にしよう。

① 私は私の町で高齢者を助けたい。(old people / my town)
I want to help old people in my town.

② もし人々が私の絵を気に入ってくれたら、私は嬉しい。(pictures)
I'll be happy if people like my pictures.

③ そこで、私はいい銀行員になるために、数学を一生懸命勉強しています。(bank clerk / math hard)
So I'm studying math hard to be a good bank clerk.

Writing about Yourself 練習した文を使って、自分のことを英語で書こう。

① 私は(北国(北方)で)アイマラックを作りたい。
I want to make train sheds in the western part of Japan.

② もし人々が私のアイマラック列車に入ってくれたら、私は嬉しい。
If people can travel safely with my train schedule, I'll be happy.

③ そこで、私はいい銀行員になるために、数学を一生懸命勉強しています。
So I'm studying math hard to be a good train scheduler.

図1 ワークシート（基礎・基本から活用）

③ライティング指導について

マッピングのキーワードを文にしていく際、言い回しによっては英語に訳しにくい時がある。そこで、既習事項を活用して書くことができるように、英語的な発想の日本語に書きかえ、英文の特徴をつかませた（図2）。

キーワードには主語が書かれていなかったり、名詞で終わったりすることが多い。そこで、教科書のモデル文章を、英文にしやすい日本語表現にさせた。そして、その日本語をキーワードと比較させることで、日本文と英文の文構造の違いを理解させた。

My Project5③ Aim:夢について、マッピングでアイデアを整理しよう。

マッピング図(文の構成)

①はじめに(opening) → ②展開(body) → ③結び(ending)

① 夢はニューヨークで和食レストランを開くこと。
*まず、自分が述べたいことを書く。その順番を書き、読み手を引き付ける。

② 和食を作るのが得意である。
*アメリカでは、和食が健康食として人気が高い。豆腐料理や鍋料理を愛してほしい。
*得意順に分けて書く。具体的にはキーワードを書く。

③ 今料理の勉強をしている。
*将来への準備や目的のある気持ちを書く。should

【チャレンジ】
夢についてのスピーチ原稿のマッピング(日本語)を、英語にしてみよう。
*ポイントは、日本語をそのまま英語にするのではなく、習った英語を使って書くにはどう表現したらいいか考えて、英語らしい日本語にしてみる。

はじめに
*夢はニューヨークで和食レストランを開くこと。
→ 私はニューヨークで和食レストランを持つ予定です。
展開
*和食を作るのが得意である。
→ 私は和食を作るのが得意です。
*アメリカでは、和食が健康食として人気が高い。
→ アメリカの人々は和食が好きです。/ because, 和食は健康的です。
*豆腐料理や鍋料理を愛してほしい。
→ 私は豆腐料理や鍋料理を愛しています。/ 体に良い料理。
結び
*今料理の勉強をしています。
→ 私は毎日料理を練習しています。/ 良い料理人になるために。
So I'm practicing cooking every day / to be a good chef.

図2 ワークシート（キーワードから英語へ）

マッピングのキーワードは「アメリカでは和食が健康食として人気が高い」であるが、原稿に書かれた英文を直訳すると「アメリカの人々は和食が好きです。なぜならそれら（和食）は健康的だからです。」という日本語になる。あえて直訳させることで、主語・動詞を含む文を意識させ、既習事項を活用して表現できるように考えさせた。

④個人思考について

夢についてのマッピングをもとに、英文の下書きを行った。ワークシート（図3）では、文章構成“opening”“body”“ending”の枠を区切り、書きやすい部分から書くように指示した。指導者が机間指導で個々の質問に対応するには時間的に厳しく、また全体の把握が難しくなる。そこで、わからない単語は積極的に辞書を使って調べるように指示し、表現の仕方が分からない場合にはワークシートの「Questionコーナー」に質問事項

をメモさせた。実際に生徒が書いた質問内容には、知りたい表現として「〇〇大学の△△学部に入りたい」「魂を入れる」「ゲームは娯楽の一部」などを挙げていた。ワークシートに Question コーナーを設けたことで、生徒はその都度質問することなく疑問点をまとめ、書くことに集中できていた。質問に対しては、集団思考の際にクラス全体で一緒に考えたり、授業後にワークシートを回収して指導者がアドバイスを書いたりして対応した。

とする意欲につながっていた（図4）。

自分の夢「マッシュリン(文の構成)」この流れで書くとよい。

①はじめ(opening) ②本題 (body) ③結(ending)

① 夢は、サイヤウォーマーになること。

② 僕が小学生のとき、電車が好きになりました。そのとき、鉄道関係の仕事に就きたいと思いました。

③ 将来、人々の安全に貢献したい。僕は強い。正確なマッシュリンを作るには、もっと数学を勉強しなければなりません。僕は、20歳までに電車について知りたいです。

My Project 5④ [Aim:夢について、理由やエピソード等を加えてつなげやすく書く。]

Writing about Your Dream 書いた基本表現とマッピングを参考に、夢について書く。

opening My dream is to be a train scheduler.

body When I was five years old, I fell in love with trains. Then I thought that I want to be occupation of train & connection. I thought that I wanted to be a train scheduler. If people can travel safely with my train schedule, I'll be happy. To make diagrams exactly, I must study more math. Until I am twenty years old, I want to know about trains.

ending So I'll study math hard and know about trains more to be a good train scheduler.

Question コーナー 書いている時に、どう表現したらいいか困ったら書く。

～関係の仕事 夢は... work in a job related to...

友達のコメント ペアの人に読んでもらい、感想・質問・アドバイスを書いてもらう。

サイヤウォーマーは、かっこいい。かんじ、おれ。

繰り返しの理由やエピソード等を加えてつなげやすく書いた。O: 7文以上 (B) 6文 C: 4文以下

自分の夢について好きになったときの年齢は書いたらいい。なぜ好きになったのか? など、自分の表現を使って、夢を詳しく書く。

図3 ワークシート（下書き）

⑤ 集団思考について

下書きの際の Question コーナーで挙げた質問事項について、共有すべきものを指導者が絞って全体に提示し、生徒が解決策を出し合い、学び合った。また、下書き原稿作成途中で、ペアで読み合って交流し、気付いたことや質問・感想を書かせた。友達の文章が参考になったり、分からない部分を教え合ったりすることができた。

その後、指導者が添削を加えた下書きをもとに、文章を推敲して清書させた。清書後、グループで読み合うことから、自分が辞書で調べて書いた単語には上に小さく意味を加えさせた。最終的に、グループで読み合って、お互いにコメントを書いて交流した。共感的なコメントをもらうことで、更に書こう

My Project 5④ [Aim:夢について、理由やエピソード等を加えて書く。]

My Dream 文章構成(opening⇒body⇒ending)と文と文のつながりや考えながら、清書しよう。段落の始めは少し開けよう。辞書を使って調べて書いた際には赤線を引いて、上に意味を書いておこう。

My dream is to be a train scheduler. When I was five years old, I fell in love with trains. Then I thought that I wanted to work in a job related to trains. And when I was ten years old, I fell in love with math too. So I thought that I wanted to be a train scheduler. To make train schedules exactly, I must study math hard. Also I have to know about trains more. If people can travel safely with my train schedules, I'll be happy. So I'll study math hard and know about trains more to be a good train scheduler.

友達のコメント 友達に読んでもらい、感想・質問・アドバイスを書いてもらう。

始めの夢は、かっこいい。かんじ、おれ。

友達のコメント 友達に読んでもらい、感想・質問・アドバイスを書いてもらう。

サイヤウォーマーは、かっこいい。かんじ、おれ。

繰り返しの理由やエピソード等を加えて、つなげやすく英文を書くことができました。(A) 7文以上 (B) 6文 (C) 4文以下

7文以上の文を理由やエピソードを加えながらつなげやすく書けたので、良かったです。これから夢について話したり、書いたりすることがあると思うので、もっといろいろな表現を知りたいです。また、他の人の文章を読んで、表現が良かったので、参考にしたいです。

図4 ワークシート（清書とコメント）

次の図5、6は、他の生徒の原稿である。それぞれ、なぜその職業につきたいか、そのために今どんなことに気を付けているか、既習事項を活用し、体験を踏まえて自分の考えや気持ちを具体的に書くことができています。

I want to be a speech therapist in the future. I can understand other people's feelings. When I was eight years old, I was looked after by a speech therapist, a occupational therapist, nurses, physio therapist, and doctors. I thought "a speech therapist can help other people. If I become it, I'll be able to help other people." When I'm eighteen years old, I'll enter an university. I want to study hard. So I often listen to other people's talk carefully to be a good speech therapist.

図5 生徒作品①

My dream is to be a pastry chef and run a cake shop. When I was nine years old, I baked cookies and gave them to my family as presents. Then they looked happy. After that I practiced making many kinds of cakes. Now I'm good at making cakes. I want to make my original cakes in the future. And if people like them, I will become happy. So I should study about making cakes to be a good pastry chef.

図6 生徒作品②

4 成果と課題

8年生での「書くこと」における学習到達目標を「伝えようとすることに、自分の考えや気持ちなどを加えて書くことができる。」としてライティング指導を行ってきた。成果として次のことが挙げられる。

- ・モデルとなる文章から、自分の考えや気持ちが表示されている例文を中心に選び、スモールステップで習得から活用へと段階を踏んで指導したことは、まとまった文章を書く際に、事前に書く材料を複数準備できていたという点で効果的であった。
- ・ライティングの授業において、机間指導を行う際の個別指導には時間的にも限界があるが、ワークシートに Question コーナーを設けて生徒各自の疑問点やつまづきを把握したことで、個別指導がしやすく効率的に指導することができた。
- ・原稿をグループや全体で読み合った際、自分とは違う夢を描いている友達の文章から友達の新たな一面を知り、共感的な人間関係を育成する一助となった。また、多読して読むことを楽しんでいる姿が多く見られた。

今後の取り組み課題を次のように考える。

- ・基本表現を絞って活用させたことで、文章構成や書く内容については理解があったものの、野球選手やサッカー選手のように同じ分野の職種について書いた英文は似通った文章になった。基本となる文に加えて、オリジナルの文章を書くことができるように指導方法を工夫したい。
- ・「将来の夢」を書く際、自分の考えや気持ちを中心に思考させてきたが、更に他者との関わりに目を向けさせ、社会の中での自分の役割について意識して表現できるように指導をしたい。
- ・「つながりのある文を意識し、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力」を高めるために、更に接続詞や副詞、代名詞を意識させ、パラグラフごとの内容を充実させるよう

にライティング指導を行いたい。

5 おわりに

昨年度の「日記」に引き続き、「将来の夢」について書くプロセスを考察してきた。「日記」を書くことで、事実と感想を述べることができた。「将来の夢」を書くことで、目標や希望を述べ、達成するための行動プロセスやその時の気持ちの予測等を表現することができるようになった。書くことを通して自分の夢について向き合う時間が持て、英語で表現できたことは、生徒にとって自信になったようである。今後は「書くこと」と「話すこと」の技能を効果的に統合させ、話すことへの自信をつけていきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 文部科学省：「中学校学習指導要領」, pp. 106, 2008, 文部科学省.
- 2) 文部科学省：「中学校学習指導要領解説 外国語編」, 2008, 開隆堂出版.
- 3) 檜葉みつ子：「さくさくライティング2」, 2014, 浜島書店
- 4) 大井恭子編, 田畑光義・松井孝志：「パラグラフ・ライティング指導入門 中高での効果的なライティング指導のために」, 2008, 大修館書店.
- 5) 小廣川和恵：「書く力を育成する段階的指導の研究—『日記』を書くまでのプロセスを通して」, 広島大学附属三原学校園研究紀要 第4集, pp. 215-220, 2014.
- 6) 松尾砂織・小廣川和恵・檜葉みつ子・柳瀬陽介：「平成26年度幼小中一貫教育研究会外国語部会研究構想」, 2014.